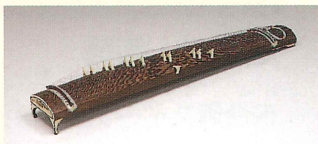




●ふくやまこと 172年の歴史

江戸末期の嘉永年間（1850年頃）、牧本長蔵氏・菅波甚七氏が製造技術、技法を確立したといわれています。以来、その技術が受け継がれ、明治末期には、伝統技法を生かしながら作業工程を改善、分業化し、より精緻な製造技法が確立され、今日における福山の琴づくりの基礎がつけられました。

製品は、手づくりの良さが随所にあふれ、音色が冴え、長年の使用に耐える優秀な琴として有名で、昭和60年「伝統的工芸品」指定、平成18年「地域団体商標（地域ブランド）」に登録されました。



連絡先：
福山邦楽器製造業協同組合
福山市西町2-10-1
福山商工会議所 内
☎084-921-2349



●まつながげた 144年の歴史

はきもの産業の発祥の地「松永」。明治11年（1878年）、塩を焚く材木に着目し、桐に似た雑木下駄の製造が始まりました。明治40年頃には機械化に成功し、大量生産の基礎が作られ、大正・昭和初期の不況にも耐え抜いて全国一のげた産地となりました。

昭和40年代には、はきもの総合産地「松永」として拡大を進め、現在では個性化にすばやく対応し、消費者のニーズに合った、はきものを製造しております。



連絡先：
広島県はきもの協同組合
福山市南松永町3-1-59
☎084-934-3322
<http://www.e-hakimono.com/>



●びんごたたみおもて 675年の歴史

1347年、「師守記」に「備後筵（びんごむしろ）」の記載があり、備後表は天文年間（約450年前）、沼隈町山南地方に野生していた藺草（いぐさ）を水田に栽培し、これを製織したものが始まりと言われ、慶長年間（約400年前）、福山藩の産業として奨励されたため、産地としての基盤が形成されました。

表皮が厚く、光沢があり、青味を帯びた銀白色の美しい藺草を厳選した当地の畳表は、全国的に名声を博し、「備後表（びんごおもて）」の名で愛用されています。平成20年「地域団体商標（地域ブランド）」に登録されました。



連絡先：広島県藺業協会
福山市松永町5-3-5
☎084-933-2004
<http://homepage2.nifty.com/bingoomote/>



●びんごがすり 169年の歴史

備後緋は、江戸末期（1853年）、芦田町に住む富田久三郎氏が、麦藁屋根の押し緋竹がすすで汚れて白と黒とに染まっているのにヒントを得、木綿糸をつむぎ、手で括り、正藍で染めて、緋織物を作ったのが始まりでした。昭和30年代には工業生産化され、全国の緋生産の7割を占めました。

久留米緋、伊予緋とともに日本三大緋の一つと称され、平成4年「広島県指定伝統的工芸品」に登録されました。



連絡先：備後緋協同組合
福山市新市町新市434-2
☎0847-52-3017
<http://www.kasuri.or.jp/>



●ともほうめいしゅ 363年の歴史

大阪の漢方医、中村吉兵衛が考案した16種の薬草を使った薬味酒で、万治2年（1659年）に鞆（とも）で製造が始まり、江戸幕末、黒船で来航したペリー、ハリスに江戸幕府老中首座、阿部正弘（福山藩）が振る舞いました。

アニメ「崖の上のポニョ」に登場する「命の酒」のモチーフになっていると言われています。



連絡先：鞆保命酒協同組合
福山市鞆町鞆595
☎084-970-5374

●福山市について

福山市は人口46万人の中核都市で、瀬戸内海沿岸、広島県東部に位置します。万葉の時代から栄え、江戸時代の風情を残す景勝地「鞆の浦」は世界の人々を魅了し、JR福山駅前直ぐ近くにある「福山城」は2022年に築城400年を迎え、数々の記念行事を実施しています。市の花であり、協働のまちづくりを象徴する「ばら」をモチーフにして、毎年5月には市最大のイベント「福山ばら祭」が開催されます。

備後ふくやま伝統産業展は福山に所在する伝統産業5組合が協力して2010年3月に初開催し、毎年1回開催しております。（2021年は休止）

